

学びのデザインシート

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

1. 対象 特別支援学校 中学部縫工班染めグループ

- ・指示理解については、口頭での一斉指示で理解できる生徒は数人で、個別の声掛けや教師の提示したイラストや実物を見て理解できる生徒が多い。
- ・コミュニケーション面は、発語の少ない生徒が多いが、友達に興味をもち関わろうとする姿が見られる。また、どの生徒も教師との関わりの中で、簡単な言葉やサインなど自分なりの方法で報告や相談ができる。
- ・毎年作業班が替わるため、どの学年の生徒も4月から縫工班に所属している。繰り返し活動することで見通しをもつことができており、作業学習に対する意欲が高い生徒が多い。
- ・本単元では、初めて製品作りを行い、中学部の教員と生徒のためにコースターを作る。昨年度も縫工班が制作したコースターを皆へ渡して給食時に使用していたため、2、3年生は縫工班が作成したコースターを身近に感じている。

2. 単元名 「先生や友達にコースターをあげて喜んでもらおう」（全16時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・自分の担当する作業内容が分かり、見通しをもって取り組むことができる。 ・決められた場面で報告することができる。
思考力，判断力，表現力等	・渡す相手のことを考え、自分で柄や色を選ぶことができる。
学びに向かう力，人間性等	・目的が分かり、進んで活動に取り組むことができる。

4. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い

- ・どんなコースターをあげたら先生や友達は喜ぶだろうか。

考えるための材料

材料①	材料②
新しいコースターと、 古いコースター（実物）	コースターを渡す友達や教員がいつも着ている服や持ち物に多い色や柄についての情報(写真)
想定される活動	
・新旧を比較して、どちらがいいかを選び、新しいコースターを渡せば喜ぶのではないかと考えて製品作りに取り組む。	・写真を見て、渡す相手が好む色や柄は何か考え、それを渡すことで喜ぶのではないかと、染め液の色や柄を選んで制作する。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

○設定する対話の方法

- ・生徒が友達の作っている製品の柄や色を見ている時に教師が言葉を掛けたり、次の工程の生徒に手渡ししたりする機会を増やし、生徒同士のかかわりを設定する。（生徒－生徒の対話）
- ・教師が材料①や材料②を導入時に毎回提示して、考える時間を作る。自分の考えを教師と話したり、教師の問い掛けに選択で答えたりする。（生徒－教師の対話）
- ・材料② 相手に合わせた材料や色を選ぶ。（生徒－製品の対話）
- ・教師や友達にアンケートを渡し、好きな色を書いてもらう。（生徒－生徒・教師の対話）

○対話や思考のプロセス

- ・○○先生は普段この色の服を着ていることが多いから、△色が好きなのかな？
- ・好きな色でコースターを作ったら、喜んでくれるかな。
- ・○○先生の好きな色でコースターを作ろう。
- ・作ったコースターを○○先生に渡したい。
- ・○○先生が喜んでくれてうれしい。
- ・○○先生は本当に△色が好きだったんだな。
- ・次は◇◇さんの好きな色で作りたいな。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・新しいコースターを作って渡したら喜んでくれた。
- ・友達や先生に合った柄や色を選んで作ったら、喜んでくれてうれしい。
- ・中学部だけでなく、もっとたくさんの人に渡してみたい。